食の不均衡に、みんなで挑む



乳幼児定期健診で 栄養カウンセリングの 実技研修をするヘル スワーカー。家庭環 境や受診歴、食事の 現状、子どもの栄養 状態などをふまえ、そ れぞれに合わせた食

事指導を行う。





子どもの成長に合わせて必要な栄養がとれるよう、 食べ物や献立などを考えるグループワークを実施。

母子手帳の栄養の

イラストが

わかりやすい!

生後2か月の子ども

と定期健診に来た

ギフティー・オセイさ

ん。「子どもの食べ

物に関する役立つ

情報を知ることがで

きてうれしい」。



州講師・クワダソ郡保健局長 グレイス・ビリー・カンピティプさん

ヘルスワーカー対象の研修で栄養の講義を担 当。JICAの「アフリカ地域女性指導者のための健 康と栄養改善」研修の受講者でもあり、帯広で学 んだ"食育"をガーナで実践している。「カウンセリン グ時に、それぞれの子どもの成長や家庭環境に 合わせたアドバイスをするのに役立つ知識や方法 を伝えました。栄養改善を通じて人々が健康にな ることで、さらにはガーナの発展につなげたい」。



遠いけれど 健診に来て

よかった!

妊娠8か月のギフ

ティー・アドさん。

「初めての子ども

なので、ヘルスワー

カーから正しい食事

をとれていると言わ

れ安心しました」。

ヘルスワーカー ハナ・フリッポンさん

地域に密着したサービス提供で8年のベテラ ン。「今回の研修で身につけた知識をカウン セリングに生かしていきたい。これまでも、低 体重の子どもが体重も増えて元気になって いく姿に喜びを感じていました。カウンセリン グによってお母さんと子どもがもっと健康に なってほしい」。

で

0)

配 付

が

始

ま

τ

1

を有効に活

櫻井杏子(さくらい・きょうこ)さん

2018年よりガーナのプロジェクトに参 加。これまでにカンボジアの保健プロ グラムも担当。「妊婦や母親が食生 活の改善を実行に移せるようにするた めの、継続的な働きかけとサポートが 重要です。今後栄養と農業、水・衛生 などの分野との協力が進めば、母子 の健康と子どもの健やかな成長への さらなる貢献につながるでしょう」。



養の重要性 T わせたカウ それぞれ ませ ン した

の認識や知識を持って 0) 多 の妊産婦や母 と話す

ス 0) した栄養カウ $\hat{\mathbf{3}}$ ープに分か 日間の 研修 ン れて母

の研修を行って 協力して全国のへ もらおう ルスワ アク が研修を受講。 /ラに次ぐ るア 名 いる。 シャ ルスワ 大都市 保健省など 同年 0) ヘル 名が 0) 力

る体重増加量を考慮して栄養カ 幼児の食生活ガイドや、 季節に応じて手に入りやす をすることや、 わせた食事や らく摂取すべき食品群のイラスト 記載されて 対応策を提案できるようになる 寧に耳を傾け、 栄養カウンセリングを実施する 体重増加量、 使って食生活の改善策を提案す とも伝えた。 となどの 保健施設での実習も行った。 れた。 帳の体重・ 聞き取りを行ったうえで、 んは、 メニュ 母子手帳には妊産婦と乳 実践して ら算出 大切さが、 いる。 衛生面のアドバ 「絵が豊富な母子手 合わせて離乳食 の子どもの状況に合 妊婦や母親の話に 体調などをふまえ 食事や衛生習慣に お母さんたち 地域や生活環境、 実行に移しやす のハ を組み立て この情報を 妊娠中の貧血 いくため、 研修で バランス フリ ベテラ



正しい栄養の知識を 学び、伝える **案件名** 母子手帳を通じた 母子継続ケア改善プロジェクト 2018年4月~2021年4月



国名:ガーナ共和国

通貨:ガーナセディ **人口**: 2,976万人

(2017年、世界銀行)

公用語:英語

1957年に英国より独立。90年代に民主化 が進み、2001年にはガーナの歴史上初め て選挙による与野党間の政権交代が実 現。経済は農業・鉱業等の1次産品依存 型であり、カカオ豆、石油等を輸出する。









JICAは保健分野や農業分野のガーナの機関とともに、人々の生涯を通じた栄養改善に協力している。 保健分野では、住民の栄養カウンセリングに取り組み、

農業分野では、栄養価の高い米を生み出す加工技術の普及を進めている。

文●久保田真理 写真●阿部雄介

が記録できるとともに、 Planning and Services) Community based 母体の健康状態や乳幼児の成長 模範国とさ るものに、日本発祥で ナの母子手帳には、 い発展を遂げ、 ビスの推進を図る、 栄養カウンセリ いて豊富なイラストで解説 活動やコミュニテ (通称、 世界各国にお 疾病予防や健康増進活動 そんなガ 善のア 9 9 ら後押ししてい を記録するなど目 カ最大の経済成長率 母子手帳) 続けて は駐在するへ 妊産婦や母子そ 全体を対象に 低中所得国 して活用り 年から地域保 ナでは、 向 いて母子 ングの記録 いる母子健 食事や 産前産後 の活動 Health $\frac{2}{0}$ 1 がある。 P S への啓 国家 ゥ ル れの 政

09 mundi January 2020 January 2020 mundi 08

栄養専門家の櫻井杏子

られる。

ガ

食の不均衡に、みんなで挑む

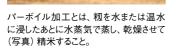
村の広場に出かけて大人を対象に血圧を 測定。ガーナには大人向けの健康診断が ないため、今後は定期的に検診を受けられ る仕組みを作っていく。



保健専門家 佐藤千咲

2018年よりプロジェクトに 参加。フィリピンでも母子保 健のプロジェクトの経験が ある。「戦後の日本で地域 の保健師が活躍してきたよ うに、ガーナでもヘルスワー カーが地域に出かけて活 躍していくためのさらなるサ ポートを行っていきます」。





農家の栄養を改善 **
天水稲作持続的開発プロジェクトフェーズ2
2016年5月~2021年3月

精米前 (写真手前) と精米後の パーボイル米。



2012年から2年間、日本の東京農業 大学に留学。「農業の技術指導だ けでなく、販売や栄養の知識も伝え ることで、栽培計画をどう立てるかを 農家が考えるようになり、意識が変 わってきたと感じています」。

デオも制作中だ。 を高めた米 もアツ

スで図って

ઢ

在

ラ

ス

В

約3倍に

る

ました」

と技術指導

や消

る教

費普及を行う

バ

んは語る。

食事

北部3州におけるライフコースアプローチに基づく 地域保健医療サービス強化プロジェクト

2017年7月~2022年7月

0) ための試みが進められて とで砕米の発生を抑制してき 米を 低くなると これにより精米後の栄養価 の北部では、 加価値を高めて販売 ーボ 精米のビタ いう特徴に着目 伝統的 ル 処理す る

0)

年間で2倍に増加しているもの 北部では主食が 0) 知らな 特に農村部では調理方法をあ 消費量が ナ国内で と模索して 6 食に使 人も多 ゥ モロ 3 人あた 年 そこで ロコシのた ゥ p, モ **の 10 の**

モロ コ シを多 部ビ タ 食 べる食習 В がが 奮闘してい

たっ

て健康で る。

られる

0

こが訪

れる

0)

食を通じて健やか

成

ガ

ナ国民が栄養

ることが期待さ のアプ 健康的な食習慣を手 異なる分野で進む栄養改善 D 栄養改善につなが つて戦後 消費 異なる関 にして バさ の日

進す

CHIPS施設長 アヤジ・アミナ・モハメットさん 「栄養や測定に関心を持つお母さんが増え

てきて、低体重も改善されてきています」。



国連WFPの発育阻害予防プロジェクトに携わるみなさんと。

協力隊員(栄養士) 小山裕美(おやま・ひろみ)さん(右)

管理栄養士。2018年3月よりガーナで活動。「栄養補助 食品を受け取る人の情報を管理したり、食品の提供が適 切に行われているかモニタリングしたりしています。栄養 補助食品を摂取するようになってから母乳の出がよくなっ たという声もお母さんから寄せられています」。

> 国連の 歳までの栄養改善はその 海外協力隊員の小山 /きく関 が19年7月にスタートさ食料支援機関である国連 わ るこ 一裕美さ 後の んは、

応は子ど 北西部 のア

にある第3の都市 食品を提供す

タマ

る事業に参加

妊産婦と母子

を対象に栄養

0) 広がっ

栄養状態がど 組みの成果を感じ始 体重や身長に関心を持 誕生日まで 地道にく モ S れだけ重要か、 0) 施設長、 0) 返 胎児の頃から2 し伝えて んは 温めて 0 お母 み 日 の

ために、 社会経済的な変化によ 住民の健診による早期の疾病発見 どが増加傾向にある。 を進めているのだ。 康増進のための栄養改善や運動 概念に基づ 供たち の栄養不足が イフコ 高血圧、 たけ 0 ため そのた ある一 糖尿病な スの П

0)

参。子どもの年齢に合わ せた食品が適切に渡って いるか、情報を管理して

定期健診とセットで/

保健施設での定期検診に合わせて、月に1

度栄養補助食品を配る。お母さんたちの栄 養に関する質問にヘルスワーカーが答える

康になれば意欲的に働くこ

ィプさんは

3割が標準の身長に満たない

状況 0

に先駆けて進めており、

研修講師を務めるグレ

ス 「人々

ビ

ら発育阻害が起こり、

2 歳児

約

健サ

ビスの実施の強化を他

0

特にガー

ナでは、

栄養不足

門

家の

支援で、

S

時間も設けている。

特に妊娠期お

よび0

歳か

と 国 経済

の発展にも期待を寄 的にも成長をもたら

もではなく

他の兄弟に与えて

母子

保健の強化が

まで行わ

らは母子保健サ

ビスだけ

ゆる年齢層

を対象

0

なってい

住民まで届 ムを活用 16 年

0)



栄養補助食品を 提供

いつもの離乳食に栄養をプラス 離乳期栄養強化食品事業化準備調査(BOPビジネス) 2011年4月~2014年2月

ソーシャルビジネス立ち上げのため、事前調査を実施。 現地の食習慣の尊重、低身長の問題の改善、おいしさの 追求をコンセプトに、栄養サプリメント「ココプラス」が 開発された。1袋10円ほどで1日1袋の摂取が目安。 2018年からは、ヘルスワーカーらが栄養教育を行いな がら、栄養改善のひとつの手段として紹介している。



大豆を主原料にビタミンなどの 微量栄養素や必須アミノ酸の リジンなどを添加。発酵コーン の伝統的離乳食"ココ"に加え て使用する。





味の素ファンデーション 上杉高志(うえすぎ・たかし)さん 2015年よりプロジェクトに参加。「ま ず"栄養の価値"を伝え、かつ効果を 実感するために最低1か月くらい継 続摂取してもらうことが、難しいけれ ども重要。ヘルスワーカーの力を借 りて、お母さんたちの信頼を得ること が課題解決の鍵です」。

*2 中部・北部の35郡を対象に、雨水を利用した稲作の普及を支援。 米の生産量増加や安定を通じた農家の収入向上を目指している。

January 2020 mundi 10

増進の

ためのサ

ビスを提供

ス

に合 あら

た疾病予

防や のラ

0)